

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

トウキョウサンショウウオ

Hynobius tokyoensis Tago, 1931

草野保

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 爬虫類・両生類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：草野保，2026. トウキョウサンショウウオ. 環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 442-447.

Citation: Kusano. T., 2026. *Hynobius tokyoensis* Tago, 1931. In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 442-447.

トウキョウサンショウウオ

Hynobius tokyoensis Tago, 1931

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) A2

基準 A: EN	基準 B: —	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —
----------	---------	---------	---------	---------

A2. 過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。

【比較年】

3 世代 (30 年)

【過去の状況】

東京都での 1998 年～2018 年の 20 年間のモニタリング調査で、繁殖メス個体数が 6300 頭から 3900 頭に減少したと推定された。20 年間で 62%に減少したので、同じ率で減少すると 30 年間の減少率は 49%となる。そこで、現在の個体数をこの率で割ることによって 30 年前の個体数を推定した。

【近年の状況】

東京都での 2018 年の 20 年間のモニタリング調査で得られた各産卵場での産卵卵嚢数のデータより、2018 年時点の東京全地域で総卵嚢数を推定した。1 繁殖期に 1 メスは 2 卵嚢産卵するので、総卵嚢数の半数がメスの個体数となる。本種の分布域全体での個体群サイズの定量的評価に関する情報はないが、生息状況に関する文献情報等により他の 4 県においても個体群衰退の傾向はおおむね東京都と似たものであると推察される。

評価分科会： 爬虫類・両生類分科会

概要

本種は、関東地方の群馬・茨城県を除く 1 都 4 県に分布し、丘陵地の落葉広葉樹の二次林やスギ・ヒノキの人工林に生息し、山間の水田や湧き水の溜りなどで繁殖する。丘陵地の開発による生息地の破壊・消失により分布域の縮小・個体群の分断・孤立化が顕著である。近年は、休耕田化による乾燥化により産卵場が消失し、さらに外来種による捕食・愛好者等による採集により衰退傾向に歯止めが掛かっていない。

基礎情報

【形態】

全長は 80～130 mm 程度。体側の肋条は通常 12 本。四肢は比較的短く、前後肢を体側に沿って折り返すと、わずかに触れ合う程度から 2.5 肋皺分の隙間ができる。鋤骨歯列は小さい U 字型。体色は、黄色味の強い褐色から黒色まで変異に富み、尾の縁に黄色の条線をもつことはまれ。体側には青白色の小点が地衣状斑となっている個体もある。愛知県以西に分布する近縁種ヤマトサンショウウオは、深くて狭く長い V 字型の鋤骨歯列をもち、肋条の数が普通 13 本で、尾の縁に黄色の条線が入る。栃木県にも分布するトウホクサンショウウオは、前後肢を体側に沿って折り返すと、オスでは指の先が重なり合う個体が多く、肋条の数はふつう 11 本で、卵囊外被に幅の狭い特異な条線が見られる。

【生活史】

2～4 月の早春に繁殖場に集まり産卵する。メスは平均 50～140 個の卵をクロワツサン状の 1 対の卵囊に入れて水中に産卵する。5 月末までにふ化した幼生は、動物プランクトンや水生昆虫などを捕食して成長し、初夏～10 月頃までには変態し上陸する。上陸した幼体は、繁殖場周辺の森林の林床に広く分散して土壌動物を捕食しゆっくり成長する。活動期は 4～11 月で、繁殖開始まで 3～5 年を要する。大多数の個体は変態上陸期以前に死亡するが、性成熟まで達した個体の年生残率は高く、寿命も長い。野外の繁殖オスの年齢構成を見ると 10 歳以上の個体が 7～35% を占め、最高 21 歳の個体が観察された。飼育下では 30 歳以上の記録もある。

【生息環境】

海岸地域から標高 300 m 程度の丘陵地の落葉広葉樹の二次林やスギ・ヒノキの人工林に生息し、山間の水田や湧き水の溜りなどで繁殖する。種分布モデルによる解析では、年平均気温 13℃ 以上で森林割合の高い地域が生息環境として好適であると推定された。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林，耕作放棄地，農業用水路，湿地・湿原・細流， ため池・池沼 【陸域_平地部】森林，耕作放棄地，湿地・湿原，農業用水路，小河川， ため池・池沼
国土地域区分：	(2) 里地里山・田園地域，(4) 河川・湿地地域

【分布域】

関東地方の群馬・茨城県を除く 1 都 4 県の丘陵地に分布する。近縁種であるヤマトサンショウウオは愛知県以西に分布し、全く分布域が重ならない。クロサンショウウオ、トウホクサンショウウオとは栃木県で、ヒガシヒダサンショウウオとは東京都・埼玉県で分布が隣接するが、同所的に生息する地域は知られていない。

現在の生息状況

【分布域の現況】

地区により分布域に関する情報の量・精度は異なる。過去の生息地点も加えた生息地面積（2 km セルサイズで算出）は、全体で 1200 km²と推定された。都県別に見ると、栃木県は 170 km²、埼玉県は 290 m²、東京都は 220 km²、神奈川県は 50 km²、千葉県が最大で 510 km²となった。ただし、詳細な生息状況が 1990 年代後半よりモニタリングされている東京都では、2018 年時点では 184 km²と約 16%の減少が見られた。減少率推定は過小評価の傾向が強いと思われるが、他の地域でも開発等による土地改変などの影響でおおむね同じような状況かと推察される。

【生息地の現況】

東京都では、宅地開発・道路建設・ゴルフ場造成などによる丘陵地開発が進み、多くの生息環境が 1990 年代末までに失われた。その後 20 年間は開発よりも、山間部の水田の耕作放棄にともなう乾燥化による繁殖場環境の消失および劣化が問題となっている。千葉県・栃木県・神奈川県などその他の地域でも同様と思われる。

【個体数の現況】

東京都では、詳細な産卵調査の結果、繁殖メスの個体数は 3,900 個体と推定された。産卵場の消失および存続産卵場での繁殖個体群サイズの減少により、この 40 年間でほぼ 40%弱に減少したと推定された。千葉県・栃木県でもほぼ同じような減少傾向が報告されている。

存続を脅かす要因

1990 年代末までは、宅地開発・ゴルフ場造成・道路建設などの丘陵開発による生息地破壊が個体群衰退の主要な原因であった。最近では、谷戸田の休耕田化による繁殖場の乾燥化により多くの産卵場が消失している。さらに、アライグマ・アメリカザリガニなどの外来種による捕食、および愛好者等による採集が大きな脅威となりつつある。

要因の区分：	(過去)	森林伐採，ゴルフ場，土地造成，交通インフラ建設，捕食（外来種による）
	(現在)	森林伐採，ゴルフ場，土地造成，交通インフラ建設，捕獲・狩猟/園芸採取，捕食（外来種による），管理放棄，遷移進行・植生変化/自然遷移，近交弱勢

特記事項

比較的最近分類変更があったため、地方自治体のレッドリストや保護に係る法令指定、各種文献等では、分類変更前のタクソン（広義トウキョウサンショウウオ）として扱われている場合があることに注意が必要。

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020： トウキョウサンショウウオ

Hynobius tokyoensis

VU

第4次 2019:	トウキョウサンショウウオ	<i>Hynobius tokyoensis</i>	VU
第4次 2018:	トウキョウサンショウウオ	<i>Hynobius tokyoensis</i>	VU
第4次 2017:	トウキョウサンショウウオ	<i>Hynobius tokyoensis</i>	VU
第4次 2015:	トウキョウサンショウウオ	<i>Hynobius tokyoensis</i>	VU
第4次:	トウキョウサンショウウオ	<i>Hynobius tokyoensis</i>	VU
第3次:	トウキョウサンショウウオ	<i>Hynobius tokyoensis</i>	VU
第2次:	東京都のトウキョウサンショウウオ	<i>Hynobius nebulosus tokyoensis</i>	LP
第1次:	東京都のトウキョウサンショウウオ個体群	<i>Hynobius nebulosus tokyoensis</i>	LP

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【茨城県】準絶滅危惧, 【栃木県】絶滅危惧Ⅱ類(Bランク), 【埼玉県】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【千葉県】最重要保護生物(A), 【東京都（本土部）】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【東京都（北多摩）】絶滅危惧ⅠA類(CR), 【東京都（南多摩）】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【東京都（西多摩）】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【神奈川県】絶滅危惧Ⅰ類

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

特定第二種国内希少野生動植物種

参考文献

- 青柳育夫・林光武, 2004. 栃木県におけるトウキョウサンショウウオの分布と2003年に確認された卵嚢数. 栃木県立博物館研究紀要, 21: 25-35.
- 金田正人・大野正, 1998. 神奈川県のトウキョウサンショウウオの分布と生息状況. 神奈川自然誌資料, 19: 1-4.
- Kusano, T, 1980. Breeding and egg survival of a population of a salamander, *Hynobius nebulosus tokyoensis* Tago. Population Ecology, 21: 181-196.
- Kusano, T, 1981. Growth and survival rate of the larvae of *Hynobius nebulosus tokyoensis* Tago (Amphibia, Hynobiidae). Population Ecology, 23: 360-378.
- Kusano, T, 1982. Postmetamorphic growth, survival, and age at first reproduction of the salamander, *Hynobius nebulosus tokyoensis* Tago, in relation to a consideration on the optimal timing of first reproduction. Population Ecology, 24: 329-344.
- 草野保, 2016. 種分布モデリングによるトウキョウサンショウウオの好適生息環境の予測. 爬虫両棲類学会報, 2016: 135-146.
- Kusano, T., T. Ueda, and H. Nakagawa., 2006. Body size and age structure of breeding populations of the Japanese salamander, *Hynobius tokyoensis* (Caudata: Hynobiidae). Current Herpetology, 25: 71-78.

- 草野保・川上洋一・御手洗望 (編著), 2022. トウキョウサンショウウオ：長期調査で分かった個体群の衰退と絶滅. 東京都多摩地区における 2018 年度生息状況調査報告書.
- 小賀野大一・笠原孝夫・吉野英雄, 2008. 千葉県のとウキョウサンショウウオは減っている. 千葉生物誌, 58: 21-23.
- 小賀野大一・笠原孝夫・八木幸市・田中一行・吉野英雄, 2008. 房総半島におけるとウキョウサンショウウオの生息域と特徴. 両生類誌, 18: 1-6.
- Okamiya, H., and T. Kusano., 2018. Lower genetic diversity and hatchability in amphibian populations isolated by urbanization. *Population Ecology*, 60: 347–360.
- Okamiya, H., N. Hayase, and T. Kusano., 2021. Increasing body size and fecundity in a salamander over the last four decades, possibly due to global warming. *Biological Journal of the Linnean Society*, 132: 634–642.
- Sugawara, H., T. Kusano, and F. Hayashi., 2016. Fine-scale genetic differentiation in a salamander *Hynobius tokyoensis* living in fragmented urban habitats in and around Tokyo, Japan. *Zoological Science*, 33: 476–484.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Hynobius tokyoensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hynobius tokyoensis* is listed as EN under criteria A2.

A. Reduction in population size based on any of the following:

2. An observed, estimated, inferred or suspected population size reduction of $\geq 50\%$ over the last 10 years or three generations, whichever is the longer, where the reduction or its causes may not have ceased OR may not be understood OR may not be reversible.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】 Forest, Abandoned farmland, Agricultural ditch, Wetland/Marsh/Stream, Reservoir/Pond 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Forest, Abandoned farmland, Wetland, Agricultural ditch, Small river, Reservoir/Pond
Threat types:	Logging and wood harvesting, Golf course development, Land development, Transportation infrastructure construction, Hunting and collecting animals/Gathering plants, Predation (by alien species), Abandonment of management, Successional progression/Vegetation change/Natural succession, Inbreeding depression
Law designation status for conservation	Specified class II nationally rare species of wild fauna and flora.



執筆者: 草野保
Author: Tamotsu Kusano

公表年月: 2026年3月